

〈保健体育〉

他者理解を深める保健の授業の工夫

— L G B Tに関する協調学習を通して（第 2 学年） —

沖縄県立首里東高等学校教諭 城 間 二 奈

I テーマ設定の理由

現代は、知識基盤社会の到来やグローバル化情報化、少子化、高齢化を背景に社会構造の大きな変動期を迎え、多様化する社会にいる子どもたちは、自分自身をみつめ磨く機会が減少する一方でゲームなどの疑似体験や間接体験、一人遊びが増加し、人間関係を築く力の低下や希薄さが指摘されている。

このような状況において、確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことは、学校現場での教育の役割として重要である。また、高等学校学習指導要領保健体育科の目標に「個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる」と示されている。さまざまな異なる考え方の人びとが存在する現代社会において、健康安全に生きるためには一人一人が他者と話し合い、考えを比較し自己の考えを表現すると同時に他者理解が重要となるであろう。

これまでの授業を振り返ると、生徒同士で調べ学習を行うグループ学習に関しては、各グループ内で意見を出し合い、発表し、他のグループの意見を聞き、違った意見を確認し合う内容であったが、他者理解に立って、課題解決策を考えたりするまでには至らなかった。そこで、学校生活や日常生活を通して、生徒が問題に直面した際に問題を解決する考える力や他者との関わり方などが必要となるため、協調学習を通して身につけさせたいと考えた。

近年多様性という言葉が頻繁に聞かれるようになり、日本の社会においてもさまざまな分野で他者理解を図り多様性を認めよう、守ろうという動きが盛んになっている。日本では、2015 年 3 月 31 日、同性カップルを結婚に相当する関係と認め、また、「パートナー」として証明する「渋谷区男女平等及び多様性を尊重する社会を推進する条例」が可決された。海外では同年 5 月 22 日、アイルランドの国民投票が行われ「結婚は、法に基づき、性別とは関係なく二人によって成立する」として、世界で初めて同性婚が合法化された。同様に、沖縄県でも 2016 年 7 月 8 日、那覇市が全国 5 番目にパートナーシップ登録制度を開始した。

このような世の中の流れを受け、生徒に幅広く多様な人々が存在することを知って欲しいと考え L G B T（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの 4 つの言葉の頭文字を併せた言葉）についての授業を実施した。この授業では、基礎的な L G B T の知識を教え、L G B T の当事者が理解してほしい内容や、人権に関する内容を生徒がどのように理解したのかなどの授業の感想を記入させた。生徒からは、「相手に対して偏見や差別を行ってはいけない」や「同じ一人の人間として認めてあげる」といった内容の記述が見られた。そこで、保健の単元「結婚生活と健康」において、さまざまな結婚形態について取り上げることで、生徒が多様な結婚の形を知る事によって、その背景に興味をもつのではないかと考えた。そして、手立てとして、協調学習を取り入れることで、他者の考え方を理解し自己の考えを深められと考えた。これらの学びを通して、自己及び他者の個性を尊重するとともに、相手に対して思いやりをもち、望ましい人間関係を構築していくことが可能となる。また、一人一人の多様な考え方を、自らの考えと比較し、自分なりの答えを導きだせる。その結果、充実した学習が可能となり、他者理解が深められると考える。

そこで本研究では、高等学校学習指導要領解説の保健体育科に示された内容の「ア生涯の各段階における健康」の中の「(イ)結婚生活と健康」について教科書の単元内容のみならずさまざまな資料から、生徒が疑問を見つけ探し出し、その疑問について自らの意見をまとめていきたい。また、L G B T に関する協調学習を取り入れる事で、生徒自身が問いをもち、自分と異なる意見の生徒の視点を尊重して聞くことにより、授業を通して L G B T についての知識を身につけ、他者を理解することができると考え、本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

領域(2)「生涯を通じる健康」の「ア生涯の各段階における健康（結婚生活と健康）」の指導において L G B T に関する協調学習を行うことにより、他者理解を深め、自己の健康管理について理解することができるであろう。

Ⅱ 研究内容

1 本研究における他者理解について

保健の授業とは、現在と未来の自分自身の健康のあり方、生き方を学ぶための授業だと考える。高等学校学習指導要領保健体育科に示された目標には、「個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる」と、示されている。生徒が健康で安全に将来を生きていく上で、さまざまな困難に直面すると考えられる。その際、心身ともに健康を保つことや、安全で豊かな社会生活を送るには、良好な人間関係を保つ必要がある。そのためには、他者を理解する必要がある、それこそが、保健における健康・安全に生きることに繋がる。これからの保健体育の授業においては、対話を通して多様な考えを知り、理解を深めることで、社会生活を送る際に、生じた問題を解決し安全で健康な生活を送ることができる。と考える。

本研究における他者理解とは、社会で健康安全に良好な人間関係を築くために自分の意見を伝え、相手の意見を聞くことにより多様な考え方を知り、他者の考えを認め、新しい考え方や気づきが出来ることで他者理解ができたことと捉えることとする。

2 LGBTについて

(1) LGBTとは

LGBTとは、レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーの4つの言葉の頭文字を併せた言葉である。直接的には、この4つのセクシャリティー（性のあり方）を一括して表わしている。セクシャリティーの三要素には、身体の性・心の性・好きになる性があり、表現する性を含めると四つの視点がある。多様性あふれる「みんなのミライ」の実現に向け、企業、生産者、社会に求められ様々な働きかけを行っている、株式会社電通におけるダイバーシティー（多様性）課題対応専門組織「ダイバーシティ・ラボ」は、2015年4月に全国69989名を対象に、LGBTを含む性的少数派に関する広範な調査を実施している。その結果、LGBTに該当する人は7.6%であるという調査結果を報告している。この報告書によると、「国内では約13人に1人がLGBT」という計算になり、身近にも存在しているLGBTの子ども達をサポートすることは重要な課題である。

(2) LGBTの抱える社会的問題

厚生労働省のホームページに掲載されている自殺総合対策大綱（平成28年8月28日閣議決定）第3自殺を予防するため当面の重要施策（2）教職員に対する普及啓発等の実施内容には、「性的マイノリティーについて、無理解や偏見などが、その背景にある社会的要因の一つであると捉えて、教職員の理解を促進する」ことが記されている。また、思春期に自分自身のセクシャリティーに気づくLGBTの子どもが多いと言われており、2010年に制定された子ども・若者ビジョンの中に「性同一性障害や性的指向を理由として困難な状況に置かれている者など、特に配慮が必要な子ども・若者に対する偏見や差別をなくし、理解を深めるための啓発活動を実施」とある。これは、子どもや若者を取り巻く環境が大きく変化しており、このような状況の中で、生き生きと生活している子ども・若者もいるが、困難を抱える子ども・若者も少なくない。そのため、政府はこのような状況に対応するため、子ども・若者育成支援推進法（平成21法71）の施行を受け、平成22年7月23日に「子ども・若者ビジョン」を策定したのである。

LGBTの子どもの生きにくさの原因は多岐にわたる（表1）。それから、厚生労働省の研究調査によると約93%の子どもが学校で同性愛について適切な教育を受けていないため、周囲の偏見や無理解があると言われている。そのため、当事者ではない子ども達に、偏見や差別なく、相手を認め柔軟に対応する態度や姿勢などを育てることや、互いに学び合う授業展開を工夫していくことが重要である。これからの教育において、セクシャリティーに限らず、自分の想像を超えるものや、新しい

ものに出会ったときにこそ、他者を理解することが肝要となるであろう。

表1 LGBTの子どもの生きにくさの原因

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">① 適切な情報や理解者とのつながりが無い。② 周囲の無理解や偏見がある。③ LGBTの児童生徒がいないことが前提にされていること。④ 男女で分けられているものが多い。⑤ 個別対応が必要な児童生徒がいること。⑥ 教科書の内容に、異性を好きになるのは自然なことだと記載されている。 |
|---|

3 協調学習について

(1) 協調学習とは

大学発教育支援コンソーシアム推進機構 (CoREF) は、「協調学習とは多様な考え方を生かす学習のあり方」としている。その内容は、学習のプロセスを詳しく見ると、「ひとりひとりの学習者が何かを『わかって』いくときの道筋は多様で、同じ事実に出会ってもそのとらえ方はそれぞれ異なる。この違いを生かし合って各自が自分なりの理解を深め、学んだ成果の適用範囲をひろめてゆける学習の仕方を『協調学習』」と示している。この協調学習を実践することにより、生徒が積極的に授業参加できると考える。それは、一般的な知識を伝える一斉授業とは違い、生徒が多様な生徒の考えに触れ理解し、自分の考えをさらに深めることができるからである。

このことから、今回、協調学習を通して生徒が考える力を深め、多様な考えを知ることによって知識の幅を広げ、他者理解にも繋げられると考える。

(2) 本研究における協調学習の捉え方

三宅なほみは、協調学習とは、「学校を出るとすぐ忘れてしまうような詰め込み型の知識とは違い、楽しく学び、学んだことが長持ちする新しい授業の手法」であると述べている。つまり、教師主体の一斉授業とは異なり、生徒主体の協調学習の方が個々の学びが深く得られるとしている。三宅はまた、協調学習のポイントとして、次の3つを挙げている。「①多様な理解が統合されて考えが深まる。②一人ひとりが仲間とのかかわりのなかで、自分なりに納得する。③自分なりの納得が適用できる範囲が広がる。」である。

そこで、本研究における協調学習の捉え方としては、三宅の唱える協調学習を参考にし、①生徒が仲間と協力することで、多様な考えを知ることができる。②他者の考えを自分の事として取り入れることが可能であり、他者の考えを聞くことで、自己の考えを固めるきっかけになる。③自己の振り返りを行うことによって思考力が高まり、他者理解が深まる。以上を踏まえて、個々の学びを深めさせたいと考える。

4 他者理解を深める具体的な学習の工夫

今回の検証授業は、結婚生活における社会的背景の変化や問題点に関して、他人事として受け取らないよう配慮する必要がある。具体的な学習法としては、生徒の学習意欲を引き出す内容や発問を考え、自ら学習する課題解決的な授業を展開するため協調学習を取り入れる。発問としては、「①もしも、あなたが国の法律を決められる人物だったら、同姓婚についてどう対応しますか。」「②もしもあなたの身近な家族や友達、恋人がカミングアウトをしたら、どのような言葉を伝えますか。」と具体的な問いを投げかけ、特に「もしも」と言う発問を投げかけて、生徒が取り組みやすい発問にしていく。また、個々の違った意見が予測されるLGBTの結婚を取り上げ、協調活動を取り入れることにより、さまざまな意見について他の生徒と議論することができ、その結果、個人の考えの幅が広がり、他者理解に繋がるであろうと考える。

III 研究の実際

1 単元名 「結婚生活と健康」

2 単元目標

○結婚における社会的背景（パートナーシップ制度やLGBT）について、理解しようとしている。（知識・理解）

○グループの仲間と協力して課題に取り組むことができる。（関心・意欲・態度）

○仲間と課題解決方法を考え、自分の考えを判断し整理する。また、学習した内容を振り返り、そのまとめを発表する。（思考・判断）

3 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
単 元 の 評 価 規 準	① 結婚生活における社会的背景の変化（パートナーシップ制度・LGBT）や健康問題に関心をもち、仲間と協力し、資料を集めたり、意欲的に調べたことを記録したりしようとしている。	① 結婚生活における社会的背景の変化（パートナーシップ制度・LGBT）や健康問題に応じて、自己の経験や仲間との意見交換をもとに、課題の解決方法を考えたり、日常生活に当てはめたりして、選択すべき行動を判断している。	① 結婚生活における社会的背景の変化（パートナーシップ制度やLGBT）や健康問題に応じた活用などを理解し、課題解決に役立てる知識を身に付け、学習した内容を言ったり、書き出したりしている。
	② グループの仲間と協力して、意見	② 他者の意見を受け入れ、自分の考	② 調べたことを記録し、グルー

	を交換し、与えられた発問について取り組もうとしている。	えを述べることができ、他者を思いやる考えができる。 ③ 振り返りを行い、理由付けをして自分の考えをまとめることができる。	プの仲間に伝え、与えられた課題の解決方法を見いだすことができる。
--	-----------------------------	---	----------------------------------

4 指導計画 (全4時間)

時	学習活動	指導上の留意点	評価
1	【オリエンテーション】 ・アイスブレイク ・LGBTイメージマップ① ・フォトランゲージ ・結婚とパートナーシップの違いについて ・世界の同姓婚事情（隣へポン①）	○今後の授業の進め方や約束事を確認する。 ○LGBTについてのイメージを記入させる。 ○グループで選んだ写真をみて、色違いの付箋紙に気がついたことを書いて用紙に貼り付けさせる。生徒の意見に偏りがなく、よう配色のバランスにも配慮するよう声かけをする。写真を通して様々な結婚の形があることを知る。 ○ゲーム形式でパートナーシップについて学ぶ。 ○色分けされた世界マップが何のマップなのか考えさせる。 【発問】 もしも、あなたが法律を決めるなら？ 自分の考えを書いた用紙を隣にまわし、まわってきた相手の意見を読んで自分の意見を肯定的に書けるようにする。	関心・意欲・態度② 知識・理解①
2	・YES・NO心理シート ・グループ分け ・調べ学習活動	○心理アンケートで、4人グループを作成させる。 ○インターネットによる同姓婚の調べ学習活動を行う際に、同じチームで情報交換をしても良いことを伝える。 ①APPAチーム（日本と世界の同姓婚事情） ②ピコチーム（同姓婚における差別や偏見） ③太郎チーム（同姓婚の赤ちゃん事情） ④神ってるチーム（性同一性障害の人々の結婚）	関心・意欲・態度① 思考・判断①
3	・交流学习活動 ・グループの発表 ・個人の振り返り	○交流学习活動で、元のグループに戻り①～④チームの生徒は調べた内容を伝え合う。（調べた内容の各自の感想も伝える）各グループのまとめ作業と発表を行う。	思考・判断② 知識・理解②
4	・好きなグループを作る ・カミングアウトの学び ・隣へポン② ・イメージマップ② ・まとめ	【発問】 もしも、身近な人にカミングアウトされたら ○カミングアウトの前後の変化をグループで考えてみる。 ○イメージマップ前回と色を変えて書く。どれくらいの知識が増えたのか視覚で確認させる。 ○振り返りシートを記入させる。	関心・意欲・態度② 思考・判断③

5 本時の指導（1／4時間目）

- (1) めあて 様々な結婚の形について考えてみよう。
- (2) 授業仮説 教室において、グループの仲間と協力して意見を出し合い、自分と違う仲間の意見に耳を傾けることにより、生徒は様々な考え方があることを理解するのである
- (3) 展開

時	学習活動	◆留意点と手立て	□評価
導入 7分	1. オリエンテーション（3分） 学習活動の確認 2. アイスブレイク（2分） 3. LGBTイメージマップに挑戦（2分）	◆今後の授業（4時間）の説明をする。 ◆グループ学習における注意点を確認する。 ① 他の発表をきちんと聞く。 ② 大きな声で発表する。 ③ 仲間の意見を否定しない。 ◆緊張をほぐし、仲間との同じ体験を共有させる。 ◆自分の知識が現時点でどれくらいあるのか把握させる	

ることにより、前時と比べやすいからである。4時間の検証授業を行った結果、「差別」まで書いていた生徒は、そこから「宗教」という言葉をつけ足すことができた。また、同じ内容の「差別」から「家族」「友人」へとLGBTについての言葉の繋がりを深め知識を広げることができた。

② フォトランゲージによる導入

生徒に他者を理解する手立てとして、クラスの仲間に興味、関心を持ち、クラスの一員としての連帯感を深めたいと感じた。そこで、「結婚と健康」の単位において、様々な結婚の形があることを知った上で、LGBTに関する協調学習を取り組むためフォトランゲージを行った。はじめに席の近い生徒で4人グループを作成し、黒板に貼り付けられた多くの結婚に関連する写真を1枚選び、どのように捉えたかを、付箋紙に書き、どんどん貼り付けていった(写真1)。次に付箋紙に書いた内容ごとに仕分けをする。最後にグループで写真のテーマを考え発表していく内容である。

その結果、生徒の付箋紙にあがった内容には、「同性婚の名字はどうなるの」「身内がいない、牧師さんもない」「キスをするのかな」「指輪をしてない」「親や親戚にも理解してもらっているのかな」「一人は心が男、子ども欲しいときどうするのかな」など、生徒から疑問の声も上がっていたので、次時の検証授業に繋げられる良い導入になった。このように、同じグループの仲間と共に写真のテーマを考えさせることによって、多様な生徒の視点や考え方、疑問などを知ることができた。

③ LGBTに関する協調学習

次に第2時では、それぞれの生徒に別々の課題を調べさせ、その内容をグループで話し合う協調学習活動を行った。課題内容は、普段生徒の考えの及ばない題材にした。「なぜだろう?」と、疑問を持ち考えることで、思考力が身につく、他者の立場をイメージすることができると考えたからである。その、課題内容は、①日本と世界の同性婚事情、②同性婚における差別や偏見、③同性婚の赤ちゃん事情、④異性別違和の人々の結婚についての4つとした。即座に、調べ学習を行う事はせず、まず、どんな現状があり、どんな課題があるのかを考えさせ、それをワークシートに記述させることから始めた(写真2)。それから、4人グループで調べる内容を選択し、次にインターネットで調べる活動を行った。第3時では、再び同じグループで集まり調べた内容をグループの仲間に報告した。その内、4項目の中の1つを選び発表を行った。(写真3)。このように、協調学習を通して、各生徒がきちんと課題に向き合い、調べ学習に取り組まなければならない状況を生み出す事ができた。それにより、生徒は与えられた題材の現状や課題の解決に取り組み、グループで解決策を導き出した(表2)。

また、検証授業の振り返りを行った結果、「同性愛者だけいじめられたり、自殺に追い込まれるから可哀想だと思った。」「LGBTの人々に対する世界や日本の考えや事情を知ることができ、もっと考えなければならぬと思いました。」など、振り返りのシートの感想からは、LGBTの事情を知ること、深く相手の立場を考えるきっかけになり、相手を思いやる気持ちが芽生え、他者理解に繋がったと考えられる。検証授業の課題として、生徒の中には次のような疑問が挙げられた。「世界には、まだ偏見や差別があり、かなしい思いをしている人がたくさんいることに私もかなしくなりました。」や、「なんでこんなに差別するのだろうか」と疑問に思った。別に病気とかじゃないのにこんなに差別する理由がわからない。自分がこの人を好きになると言われているようなものなのに、いじわるだなと思った。」などの意見が記述されていた。こ



写真1 フォトランゲージ資料

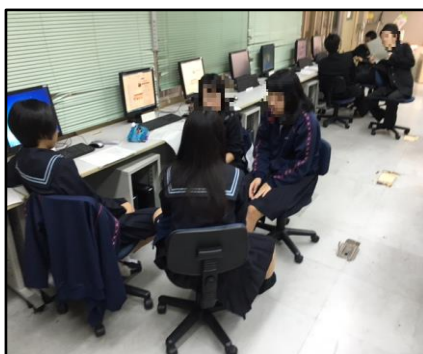


写真2 話し合い風景



写真3 発表風景

のような生徒の疑問に対して、「なぜ、差別をする人間がいるのだろうか」と発問を投げかけ、他者について考えさせることにより更に深い学びに繋がったのではないかと考える。

表2 協調学習における生徒の取組内容

日本と世界の同性婚事情	
・現状	・2001年に世界で初めてオランダが同性同士の結婚を認める法律を建ててから12年、ヨーロッパ南米を中心に各国が新しい法律ができ、13年には14カ国で認められている。日本は認められていない。 ・世界人口に占める同性婚制度を持つ国、地域の人口14.5%パートナーシップ制度2.4%、制度な83.1%と世界の8割以上の国と地域が同性婚を認めていないということがわかった。アイルランドを含めて同性婚を認めている国は18カ国しかない。
・課題	・日本は日本国憲法第24条で「婚姻は両性の合意のみに基づいて成立」とあり、日本国憲法は改正が難しいため。 ・日本は現在では同性同士の結婚はできない。 ・日本には同性婚を認められる社会の土壌になっていない。 ・国内で、同じ異性が好きな人に巡り合い、結婚にいたる確率が低い。
・解決方法	・改正が難しいなら新しい法律を作ればいいと思う。 ・法律を変える（国民からの署名を集める）、賛成の人達が行動を起こす、その様な人たちが講話をする。 ・一人ひとりがLGBTについての関心を持ち、偏見や差別をなくして、新しい目線で課題に取り組む。 ・国内で同性婚を求める人々が集まれる場をもうける。
・振り返り	・同性婚や性別違和についてよく知ることができた。同性愛者だけいじめられたり、自殺に追い込まれるから、可哀想だと思った。世界中が同性愛を認める国になることを祈ります ・LGBTの人々に対する世界や日本の考えや事情を知ることができ、もっと考えなければならぬと思いました。 ・今まではLGBTについて、よく考えたこともなかったし、正直興味もほとんどありませんでした。でも調べた後では、自分には、偏見はないかなとか、世界の法律や罰則が知ることができて、本当に良かったと思いました。考え方が本当に変わりました。 ・これを調べてから、もっとLGBTについて詳しく知りたいと思った。

(2) カミングアウトによる生徒の変容

第4時では、ゲイと性同一障害の人のカミングアウトの学びを行った。表3は、実在するゲイの方のカミングアウト前と後の心境の内容である。生徒にどのカードがカミングアウト前なのか後なのかを考えさせ、カードを分ける作業をグループで行うことによってカミングアウトを行う人の気持ちを理解するねらいがある。(JICA沖縄の国際理解の教材を、今回の検証授業用にアレンジしたものである。)この学習

活動は、字が書かれているカードを仕分け終えたら、裏返しにすることによって、絵のパズルを完成させるものである。(写真4)。正解なら絵が組み合う仕掛けになっている。また、間違った内容のカードについてグループの仲間と「なぜだろう」と、疑問を話し合っていく過程で他者理解を深めていく内容である。この取り組みから相手の気持ちを知ることは難しく、ゲイについてのカードでは、各クラス全問正解のグループは2グループあったが、性同一障害についてのカードでは、全問正解したグループはひとつもなかった。

この教材を通して、生徒はグループの仲間と、カミングアウトの前なのか後なのかと、カードを動かし「こっちなかな、あつちなかな」と悩み、グループの仲間と意見を交わしながら仕分けしている場面が多く見られた。他者の気持ちを考え、理解することの難しさを体感できたと考える。授業後の生徒の感想から、他の生徒と関わり答えを出し合うことによって、個人の思考を広げ、他者理解にも繋がり、深く学べることが確認できた(表4)。

表3 カードの内容

大切な人達は家族や友達です。	大切な人は、家族や友達です。
会話や行動を含め罪悪感が。	開放感があります。
人の顔色をみています。	性格は前向きです。
一人を好みます。	笑顔も自然と出来ます。
人との会話は楽しめません。	人に気をつかいます。
夢はもちません。	自分から声をかけます。
死ぬ事を考えます。	大切な人が増えます。
好きな気持ちを殺します。	自分に自信をもっています。
イジメの対象になります。	戦う勇気があります。

カミングアウト前

カミングアウト後

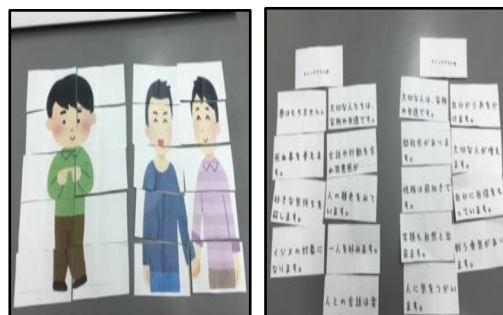


写真4 カミングアウトの学びの教材

表4 授業後の生徒感想

・カミングアウトをすることによって気持ちが楽になる。バイセクシュアルや性同一性障害の方々は、恐怖と不安がありながらもカミングアウトをするからすごい勇気をもっているなと思った。・相手を思いやることを大切にしたいと思う。・カミングアウト前と後でも否定されたり、尊重されたりがあるのは変わらないと思うからやっぱり、周りがしっかりと理解するのが必要と思います。・自分の事を信じて打ち明けたと思う。だから、相手を尊重して大切にすること。・2、3個間違えていて驚いた。思っていた答えと違って改めて学べた。・やっぱり、みんな大人になってからカミングアウトする人が多いと感じた。・トレイとかの問題は全然わからなかった。・同性やカミングアウトについて、グループで様々な意見が出て、みんなで深く考えることが出来た。

(3) L G B Tに関する生徒の理解度

検証授業の前に生徒が、どれだけLGBTについての知識があるのか事前アンケートを行った。調査人数は(男36名女26名、計63名)である。また、4時間の授業を終えて、生徒の知識や理解が広がったのかを知るために同様の内容で事後アンケートも行った(図2)。

LGBTの4つの頭文字の意味を全部知っていたら4問、一つ知っている生徒1問として図に表した。4つの頭文字の意味を書ける生徒は事前では6%（4名）で、とても少なかったが事後には49%（31名）へと増加し、LGBTに関する理解が深まったと捉える。また、未記入の生徒は65%（45名）から0%（0名）になり、4時間の検証授業を通して生徒のLGBTに対する興味・関心に繋がった。

しかし、生徒が理解しにくい、注意すべき内容として、「トランスジェンダー」があげられる。日本では、性別適合手術などの身体的治療を望む人達が社会的に認知され、法的な整備が開始され2003年頃から「性同一性障害」とい

言葉が知名度を持つようになった。今回の検証授業の課題として、心と体の性別に違和感があっても、その度合いが人それぞれであるように、「トランスジェンダー」＝「性同一性障害」と認識されてしまい、困惑している人がおり、その違いは広義な言葉なので、「心と体の性別に違和（差）がある人」と正確に理解させる必要があった。授業で説明をしたが、事後アンケートの集計結果では、トランスジェンダーについて答えられなかった生徒は、32名もいた。そのうちの「性別違和や性別が他の人と違うこと、性同一障害」など記述した生徒が9名いた。この9名の生徒の答えは、間違っていないが英語ではトランスジェンダーと明記され、日本語では性同一性障害と訳されるため、日本語と英語が混在しており混乱しやすい。そのため、生徒にはそのことを区別して知る必要がある。レズビアンやゲイは日常生活でも耳にするするが、バイセクシュアルやトランスジェンダーは、あまり聞き慣れていたためだろうと推測した。よって、LGBTに関する理解はおおむね達成できたが、今後よりいっそう定着させる必要があると考える。

(4) 発問の工夫について

① 隣へポン「法律での同性婚の受け止め方」

生徒に他人事として、授業参加するのではなく、自分事のように受け止め考えて欲しいと考えた。そのためには、発問の工夫が必要であった。まず法律を定めることができると仮定して、「もしも、私が一国の主で同姓婚について法律を決めるのならば」あなたは どうしますか？」と具体的に発問して、一人の生徒が記述した意見をもとに、同じグループの生徒がコメントを記述していく活動を行った(図3)。「隣へポン」の内容は、同性婚の世界地図(同性婚を認める国、パートナーシップ法のある国、同性婚が認められない国、LG

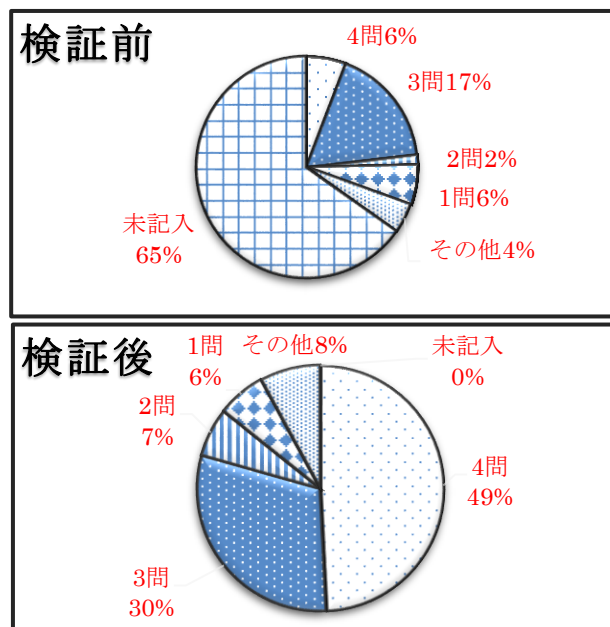


図2 LGBTの理解度

陽へポン

もしも、私が一国の王で同姓姉について法律をきめなければならないならば(根拠や理由)と書くこと。王様の人の内容を書き記しててお読みをすること。

読めるが、同女性を承知もつうける。

はるかない場合は、死にたり。

1期書き	とてもざんげしなくていい考えですごくいいと思いた。
2期書き	税金をつける事がすごくいいと思った。
3期書き	承知もつうけるのは何でだろと思ふ。 かんばうなる承知もむきな人ができえう。
4期書き	いろいろとまじりと思ひた。

最終的な自分の考え(根拠や理由)と書くこと。

国カを治える方法上の事で、いかに、せほり読めるか
かが、財人な事だから、いかに思ふ。

図3 隣へボンワークシート

B Tであると言うだけで死刑になる国)との連動性があり、色分けされた世界地図が何なのか、グループで話し合った後に取り組む協調学習である(写真5)。

取り組みとして、初めに自分の考えをワークシートの1番上へ書き、書いた用紙を4～5人グループのメンバーで回して行く。次に相手を書いた内容を読んで、自分の意見を書いていく作業を繰り返す。最終的には、生徒の用紙が自分の手元に戻って来た時に、他のメンバーの意見を読み自身の意見を最終的にまとめ、1番下へ書いていく方法である。



写真5 L G B T世界マップ

生徒の感想を分析すると、同性婚を認める選択肢が約9割で圧倒的に多かった。その内容は次の通りである。「人は平等だから、その人達だけ認めないのは駄目。誰もが皆結婚できる権利があるから」(表4)。同性婚を認めた生徒の中には、ただ容認したのではなく、自らの考えを示せるようになった生徒もいた。また、同性婚において、「子どもができない」のではないかと少子化を危惧した内容もあったが、最終的には周囲の意見に刺激を受け感化され、「同性婚が認められた方がみんな幸せだからいいと思う」と、意見の変容が見られた。ワークシートを通して自己の振り返りを行うことにより多様な考えを受け入れ、自分の考えを導くことができていた。また、他の生徒の新しい考え方を知ることによって他者を理解することができたと捉える。

表4 同性婚に関する生徒感想

- ・20歳以上じゃないとパートナーシップができず、お金がかかるから。
- ・結婚するのに性別は問わない。なぜなら、差別は良くないと思うから。
- ・人は平等だから、その人達だけ認めないのは駄目。誰もが皆結婚できる権利があるから。
- ・愛するのは自由だし、愛に性別は関係ないから。他人に迷惑をかけなければ、それでいいと思う。

② 隣へポン「身近な人のカミングアウト」

カミングアウトを行う人々の大半は気持ちが、すがすがしく開放感があり、自分らしく生きることにより喜びを感じている。「もしも、恋人がバイセクシャルとカミングアウトしたら、今後の付き合いをどうするか。」という発問は、他者をどれだけ理解でき、より身近な人間にどのような対応ができるのかを生徒自身に考えさせるために行った。

生徒の考えを、よりわかりやすく検証するため①付き合う、②付き合えない、③友達になる、④その他、以上の選択肢を4項目作成した(図3)。

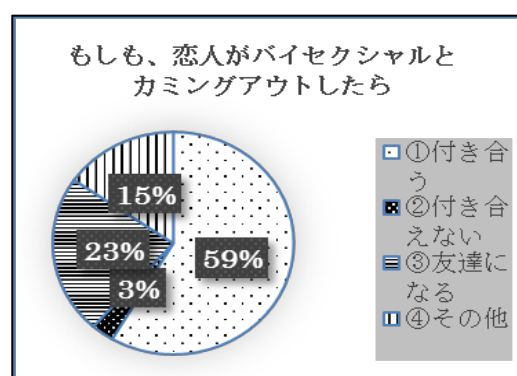


図3 身近な人にカミングアウトされたら

ワークシートの生徒記述結果は、次の通りである。2クラス集計(男38名女27名計65名)①そのまま付き合う59%(38名)②付き合えない3%(2名)③友達になる23%(15名)④その他15%(10名)であった。約6割の生徒が相手のカミングアウトに対して受け入れ、そのまま付き合う内容を選択していた。また、付き合えないと選択した生徒は2名だけで、その理由には、「自分以外の人も好きだと言われたら、嫉妬しそうだから」と記述されていた。また、その他の理由には「その時の状況にならないとわからない」など、その場面を想定しての生徒の率直な記述が書かれていた(表4)。

このことにより、大人が思う以上に生徒は男性・女性と言う概念を超えてひとりの人間として受け止めている事を実感した。また、恋人のカミングアウトについては、自分自身が気づくことのなかった他の生徒の視点からの記述を読み、この考え方なら受け入れる事ができる「そのまま付き合ってもいいかもしれない」と、はじめの考えから変更する生徒もいた。結果として、生徒は多くの異なる考え方を知ることにより、自分の考えを固めることができた。

表4 身近な人にカミングアウトされたら生徒感想

・私は私の好きな人が誰を好きになっても私はその人の事を嫌いになることはありません。・彼氏だから、やっぱり別れたくない。友達になるって人もいたけど好きだから別れたくない。・浮気しない約束してくれるなら付き合える。でも、他に好きな人がいるならば、友達になる。受け入れる人もいれば、反対の人、それぞれいたのていろんな意見が聞けてとても勉強になりました。やはり、相手が打ち明けてくれるのは、自分を信じて話してくれたと思うので、自分は相手に偏見を持つのではなく、大切にしようと思いました。

(5) 検証のまとめ

最後にまとめとして、今回の検証授業「結婚生活と健康」の単元からLGBTについての協調学習を行ったことで、生徒一人一人のLGBTに関する知識や理解が深められたと考える。また、他者の考えを知る事により、自分の考え以外の視野が広がり、他者を思いやる心や、理解する力が身についたと考える。このことにより、生徒は多様に変化し続ける社会において、他者の考えを理解し、健康安全に生活を送ることができ、豊かな社会生活を作りあげていく態度が育っていかろうと考える。

IV 成果と課題

1 成果

- (1) 協調学習を通して、生徒がLGBTについて理解したことにより、今まで気付くことのなかった視点から、新しい考え方や気付きを得て、他者理解が深まった。
- (2) 結婚と健康の単元を通して、様々なグループ学習を行ってきたが、生徒同士の交流を充実させたことにより、授業開始時と比べて、他者理解に繋がり他人を思いやる気持ちが芽生えた。
- (3) グループ活動を充実させたことで、少人数の中で意見を述べやすくなり、真剣に取り組んでいる場面がみられた。

2 課題

- (1) グループ分けを行う際に、より活発な意見が出し合えるのは、仲良しのメンバーが良いと感じたので、事前に決めておく必要がある。
- (2) 予想外の生徒の質問や疑問、つまずき等に対応できるように、教師自身の自己研鑽が必要である。
- (3) 1時間の中に、多くの活動を取り入れたため、十分な時間の確保ができず、じっくり落ち着いて話し合ったりできなかった。今後は、授業計画の時間配分の工夫が必要である。
- (4) 生徒の疑問に対して、「なぜ、差別をする人間がいるのだろうか」、と発問を投げかけ、他者について考えさせることで、更に他者理解を目指す深い学びに結びつける必要がある。

〈参考文献〉

- 薬師実芳＋笹原千奈未＋古堂達也＋小川奈津己 2016『LGBT ってなんだろう -からだの性・こころの性・好きになる性-』合同出版
- 森 良一 2016 『中学校・高等学校 保健科教育法』 東洋館出版社
- 石川大我 2016 『ゲイのボクから伝えたい 好きのハテナがわかる本』 太郎次郎社エディスタ
- 金井景子 2015 『LGBT 問題と教育現場 -今私たちにできること-』 学文社
- 文部科学省 2009 『学習指導要領解説 保健体育編』 東山書房

〈参考URL〉

- 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 (CoREF) <http://coref.u-tokyo.ac.jp/about>
- DERA 開発教育教材 <http://www.dear.or.jp/activity/menu09.html>
- HUFFPOST LIFESTYLE JAPAN http://www.huffingtonpost.jp/letibee-life/sexual-minority_b_8606170.html
- 写真1 フォトランゲージ資料 2016年7月17日 (写真提供琉球新報) ryukyushimpo.jp/news/entry-318341.html
- 写真5 LGBT 世界マップ NATIONALGEOGRAPHIC 地図で見る LGBT 違法の国、合法 (写真提供ナショナルジオグラフィック社)
- <http://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/news/16/a/062100038/>